

学校プロジェクト報告書（2年目）

学校名	岩室中学校
校長氏名	本多 豊

1 学校紹介

よりよい姿を目指して学ぶ生徒を目指し、令和4、5年度では「自分で気付く、考える、動く」姿を重点にしている。また「学びを社会とつなぐ」ことを軸にした学校づくりに力を入れている。

2 実践テーマ

社会で必要とされる汎用的な資質・能力を育成する教育課程の創意工夫

「経験したことのない問題」に対して柔軟な発想で解決していく力や、独創性を発揮して0から1を生み出す力、自分の思いを打ち出してまわりを巻き込む力などが評価される時代であることを踏まえ、学習指導要領の資質・能力の三本柱とともに、従前から当校生徒の課題であった「あらゆる学びの基盤として育成したい教科横断的で汎用的な資質・能力」を次のように重点化し、資質・能力の向上を目指した教育課程の改善を行った。

【言語や情報を使いこなす力】①情報活用力 ②課題発見力 ③構想力

【自分をコントロールする力】④前に踏み出しやり抜く力 ⑤メタ視考力（メタ認知と自己調整）

【多様な人たちの中で協働できる力】⑥傾聴・共感力 ⑦思い・考えを発信し巻き込む力

3 実践内容

【取組1】探究的な学びを充実させた総合的な学習の時間の改善

【取組2】Re-PDCA型プロジェクト（「学級力向上プロジェクト」）を位置付けた学級活動の改善
ここでは【取組2】についてのみ紹介する。

- (1) 探究の過程を充実させ、地域を学びの題材とし、「深く掘り下げてみる目」「広い視野でみる目」「将来をみる目」を養うことを社会の縮小版モデルとして1年時～2年時前半では地域のひと・もの・ことと直接出会い、触れ、かかわる体験を通して、魅力、価値、独自性を追究する。2年時後半～3年時ではそれを基に、よりよい地域とはどういう地域か、それをどう創っていくかという視点から現状を分析して地域課題を捉え自分事として取組む課題を考える。伴走する教員やよりよい地域社会づくりに努力している大人と共に遂行していくまでの3年間を通した一連の学習過程とした。探究の過程では、全員の考えが大事にされ、個の力が生かされ、かかわり合いが促進されるような対話活動を目指して、ファシリテーションの考え方とスキルを積極的に取り入れた。
- (2) 従前は学校だけであることが当たり前であった3年間の全体デザインや各学年の単元の計画、準備から実施を、地域のリソースに恵まれている強みとコミュニティ・スクールの仕組みを活かし、地域と学校がコラボして「コミュニティ・スクールプロジェクト」として取り組んだ。

4 成果と課題

実践の中で以前より次のような様相が顕著になり、学校独自の調査の結果にも表れた。①地域・社会のひと、もの、ことの中から問いを見だし、その解決に向けて仮説を立てたり情報を基に考えたりする力、考えたことを根拠を明らかにしてまとめ・表現する力を身に付けている。②他者の意見を傾聴し、自分の考えとの共通点や違いを明確にしながらか多面的に検討したり練り上げたりする。③対話を通して、全員の考えを大事にし、一人一人の力が生かされることを常に意識して取り組んでいる。